

随 筆

早食いのすすめ

石垣 武男

東京である会議の終了後食事会があった。10数名で居酒屋へ行き飲み、かつ食べる。アルコールが入ると話に夢中になり出てくる料理が段々と残ってくる。小生は根が食い意地が張ってるためか話をしながら出てくる料理をすべて片付けるのが常である。飲み会も終わり間近であったが前に座ったメンバーの一人が「良く召し上がりますね」と真顔で言った。そう言われて周囲を見渡すと各人の小皿にはなしがしかの料理が残っており数種類の小皿が置いてある。残っていると店員がかたづけられないからである。中には手つかずで残っている皿もある。小生の目の前には料理が残った皿は一つもない。(年齢の割によく食べるな)と思われたのであろう。そういえば知らない間に後期高齢者の仲間入りしている自分に気が付く。

食べる速度が速いのは子供の頃からである。終戦後間もない小学校1年生の頃は浜松の天竜川のそばに疎開していた。父が天竜川や水田にいるうなぎを捕まえてきて夕食はうなぎ丼ということが度々あった。食糧事情が厳しい時代なのでお米の丼メシはご馳走だった。しかもうなぎ丼である。家族の中でいち早く丼を平らげ「お代わり」といったら母が「もうご飯がないのよ」と悲しそうに顔をしたのを覚えている。

学生時代クラブの合宿で夏に山中湖へ毎年出かけた。合宿所での晩飯の時は大変である。自分達のグループの部屋におかず類とおひつのご飯が運ばれてくる。早く食べないとご飯が売り切れてしまう。こういう時は早飯食いは有利である。とにかく一杯目は無我夢中で丼によそったご飯を平らげる。空腹もある程度満たされる。まだだれも一杯目の丼を平らげていない。そこで悠々と2杯目を丼によそう。それから食事を楽しむという具合。クラブでは自分が一番上(なにせ医学部は6年間なので)なので誰も文句は言わない。早食いのメリットである。・・・ただ品がいいとは言えない。

名大放射線科に入局した当時は放射線部と合同で定期的に昼食会が催された。放射線科医師、放射線技師や看護師、事務職員らが一緒に弁当を食べ親睦を図る会なのであろう。入局したての私は何も知らずに共済団2階の昼食場

へ。目の前に当時講師であった佐久間貞行先生が座ってみえた。食事は共済団の割子弁当。小さな弁当なので一気に平らげてお茶に手を出したら目の前の佐久間先生曰く「君は食べるのが速いね」。あとから分かったのであるが佐久間先生も早食いなのだがそれより早食いの若輩者が目の前にいたので思わずでた言葉のようである。褒めたわけでもないのだろうが佐久間先生に褒められたような気分になったのはこの時だけである。早食いのご利益かもしれない。

(名古屋城北放射線科クリニック理事長・院長)